思　い　出 ― 「中学時代」より抜粋 (※1)

中第20回卒　新 妻 三 男 (※2)

一

私たちは大正６年４月相中に入学し、同11年３月卒業した。竜田・富岡以北から集って半分は落ちた。試験には習字・作文まであった。作文は１時間に２題書かされた。「汽車」と「水害見舞の文」と。

発表の時、落ちていると極りが悪いので、合格を確めてから家に戻って袴をはいて見に行った。成績順だ。真先に隣の鈴木安蔵 (※3) 君の名を覚えた。盟友百人、こうして相中生活のスタートを切った。

……　以下略　……

二

５年の時の補助英訳は、鎌田昌次郎 (※4) 先生のシェークスピアもの。「ハムレット」は面白いがなかなか難解なので、みんな当てられると、虎の巻（小型の訳本）を本の間にはさんで読んだ。山田二郎 (※5) 君も同じようにした。流れるように読み上げたはいいが、勇み足があった。2、３行読み過したのである。とたんに壇上から声あり。Very good, too good！この山田君は人も知る山田六郎代議士の御曹司。常に金廻りがよかった。何でも機業を経営していた親爺さんの工場から、羽二重地などくすねて来て、中村近在の女教師らに安く売りさばいて、それを散在の軍資金に充てているらしかった。　……　以下略　……

後年富岡町長として４期もつとめ好評さくさく。先般愛妻に先だたれたのが悲しく、家敷内にそのお墓を築き、一日として参拝を欠かしたことがない。

戦時中みんな燃料不足で困っていた時、中村の橋本節治君（共産党東北地区委員長）の所へ、木炭をごっそり運んで来てくれたことがある。口は至って悪いが、心根はやさしく純粋だ。

三

雪が降ると、原釜から素っぱだしで、トテ馬車を追い抜いて駆けて来るのは柴田武雄君。橋本君と並んで数学に強かった。霞ヶ浦の飛行隊にいた時、橋本君を乗せて高等飛行（曲乗り）をやり、そのどぎもを抜いたそうな。クラスの左右両巨頭？が仲よく大空を飛翔したのも、クラスメートなればこそと頬笑まれる。

太平洋戦争の時、零戦のパイロットとして、又飛行司令として、第一線（ラバールその他）で抜群の手柄を立てたが、戦闘機無用論を唱える海兵同期の源田実（現参議院議員）とそりが合わず、折角の建策も流されてばかりいた。余程くやしかったと見えて、先般「源田実論」を刊行した。

……　以下略　……

四

われわれ中学５年の時の修学旅行は、日光―鎌倉―江の島―横須賀―東京といった日数の割に平凡な日程であったが、その最後のコース東京での宿は、神田は美土代町の旅館近江屋支店という宿であった。ここまで来れば、百里の道を旅行く者は云々のたとえでなくとも、特に最初の宿日光での成城中学との出合を事なく済ませて、今日まで無事故で連れて来た監督教官お二人（小林大次郎 (※6)・高野藤三 (※7) 両教諭）にとっては、やれやれよかったという安心でいっぱいで、この東京の宿も無事であれかしと祈っておられたことだったろう。

そしてその初夏の夜の東京の宿のコメディー。かなりの広間である。２枚の布団に３人位の割で幾列にもなって寝た。既に９時を廻っている。疲れた品行方正組の大方は眠ってしまった。その時悪いものを見た。女の脛だ。のっぺりとして白い、宮しげ大根のような女の脛だ。女人禁制の場に女がいる筈はない。実は佐藤由信 (※8) 君の脛なのだ。とっさにこれに眼をつけた悪漢がいた。渡部信 (※9)？　森菊雄 (※10)？　田代朋三 (※11)？誰だったか忘れたが、とにかくその悪者は、急遽宿の女中から白足袋を借りて来て、由信君の足に穿かせた。

そしてその白い脛と、脛毛いっぱいのむくつけき脚が、適当に出る程度に布団を掛けた。頭はスッポリと隠れているから、みたところ全く男と女が臥ている態だ。間もなく跫音がした。

シッシッ来たぞ、来たぞ。

のささやき。小林大次郎教官の巡視である。ジロジロ眼鏡越しに各列の寝顔をのぞいて歩く。いたずらの仕掛人とこれを知っている面々は、薄目を明けて息を殺して成行きを見守る。ピタリと足が止った。カニ先生は目前に、女と同衾する生徒を見たのである。あまりのことに仰天して泡もふけず、顔はみるみる蒼白となった。

こら、不届者！

先生は怒りに身震いしながら布団をめくった。あにはからんや、男と男だ、佐藤由信と何某だ。一瞬先生の頬は喜びに紅潮した。持前の笑顔に金歯が光った。

馬鹿者！何といういたずらだ。

安堵した大次郎先生は、足取りも軽く部屋から出ていった。しのび笑いが大笑いに変ったが、間もなく部屋は静かになった。（田代朋三記）

五

福島における体育大会の応援には毎年出かけた。阿武隈山脈を踏破して 15 里の強行軍をすることは、楽ではなかった。５年の時は田代朋三・黒江一雄 (※12)・遠藤隆光 (※13) の諸君を交えて、総勢 60 名ほどであった。生憎の雨で、こし餡をぶちまけたような道を、草鞋の紐をしめしめ急いだ。同行の小林先生らを掛田で電車に乗せた。出たのは朝の７時で、着いたのは夜の６時だから、11 時間かかっている。下級生の世話をしながら行くから時間がかかる。宿の第四小で先輩の桑折五郎 (※14) 君や伏見忠亀 (※15) 君らのもてなしで、さつまいもをたらふく御馳走になった。夜中に便所へ立ったら、脚が棒のようで歩けず、這って行った記憶がある。

３年か４年の時は、服を汽車の連中に頼んで体操着一つで出かけ、殆んど駆け通しで６時間半かかった。汽車の連中がまだ着いていないので、寒くてふるえていたっけ。

２年の時は、高野焉蔵 (※16) 君という５年生、実は９年生の先輩に率いられて行った。彼は足駄ばきで来て、よく下級生の面倒をみた。後年貨物列車の車掌になり、事故死したと聞いてあわれを感じた。彼、客車の車掌（貨物より格が上）にならないかという誘いを辞退していわく、

貨物だと輸送の鶏が、上野到着までに 10 も 20 も卵を生む。これはみんなおれの所得になる。

と。いささかな余禄に満足して栄達？　を望まなかった彼の面目躍如たるものがある。

（※１）「相中相高八十年」1978（昭和 53）年５月７日発行、「想い出の記」より。

（※２）大正 11（1922）年卒、中村出身。相高教諭：国語、昭和 25 年～36 年。

（※３）小高出身。馬城かわら版第 36 号「弁論部の活躍・鈴木安蔵君の優勝原稿」に記載。

（※４）相中＆相高教諭：英語、大正９年～昭和 32 年。

（※５）富岡出身。

（※６）相中教諭：大正７年～大正 11 年。

（※７）相中第１回（明治 36 年）卒。相中＆相高教諭：英語/漢文、明治 39 年～大正～昭和 26 年。

（※８）上真野出身。高橋由信（旧姓佐藤）。

（※９）中村出身。

（※10）新地出身。

（※11）中村出身。

（※12）駒ケ嶺出身。

（※13）真野出身。岩妻隆光（旧姓遠藤）

（※14）中 18 回（大正９年）卒。鹿島出身。

（※15）中 18 回（大正９年）卒。日立木出身。

（※16）中 17 回（大正８年）卒。八幡出身。

（転記＆※脚注　村山）